

操山公民館

SDGs 小さなことから始めよう～台所から SDGs～

◆ねらい（解決したい地域課題）

SDGs の目標 6 「清潔な水と衛生」や目標 12 「責任をもって生産し消費すること」などに対し、家庭でもできることを学び、一人ひとりが実行することで、快適で衛生的な暮らしを続くこと、手間暇かけた生活の知恵を引き継いでいくことをめざします。まずは身近な生活の中で台所を中心に一人ひとりが環境保護のためにできることを学び、家族や周りにの人に広めます。

地元に「岡山友の会」という家計家計や家庭ができる環境保護などについての学習や啓発活動をしているグループの拠点があるので、その皆さんの活躍の場として公民館講座で学習の成果を地元住民のみなさんに披露していただきました。

◆活動の様子（写真等も入れて）



生ごみの捨てかたを考えよう！ 段ボールコンポストの紹介

SDGs の説明や、生ごみを減らす工夫など岡山友の会のみなさんが丁寧に説明してくれました。
段ボールコンポストの作り方も教えてもらいました。



鍋帽子でエコクッキング



食品を無駄にしない食べ方！ 食品ロスの削減レシピ紹介

生ごみを捨てる際は新聞紙をうまく使って水を切ることが大切で、新聞紙を使っていろんな箱の折り方を習いました。みんなで一緒に作業は楽しい！と和やかな雰囲気で学び合うことができました。

◆効果（参加者の声等）

「コンポストやコットンたわしなどを早速作って活用しています。」「講師の友の会の皆さん的研究熱心な態度に感心しました。皆さんのおかげで SDGs を身近に感じることができました。」「毎回楽しみで生活に役立つヒントをいただきました。」など好評な感想をいただき、リクエストもあったので、続編で「家計講習会」や「鍋帽子でエコクッキング」の講座を予定しています。

坪田譲治没後40年事業

児童文学作家で岡山市名誉市民！
今年、没後40年の節目を迎えました。

「私たちのふるさと 石井と坪田譲治」

◆ねらい

地元石井学区（現在の北区島田本町）の出身であることから、石井小学校や石井学区連合町内会でも様々な顕彰活動が行われている。地域の中には、より多くの人に坪田の偉業や作品について知ってもらいたいと考える人が多い。

岡山市の「文学による心豊かなまちづくり推進事業」や、ユネスコ創造都市ネットワークに日本初の文学分野での加盟申請に向けた動きの中で、坪田譲治は重要なキーワードとなっている。

そこで、改めて坪田譲治や作品をより広く知ってもらうきっかけづくりをすることで、譲治の功績を確認する場にする。

◆活動内容・様子

～「ふるさと石井」をキーワードに、人物像や作品への理解を深めました～

第1回 坪田譲治をご存知ですか？



譲治の孫、西村真理さんが来館。

「祖父と私」というテーマで思い出を語っていただきました！

【感想】

- ・ふるさと岡山に対する思いが強かったことを知り、人間味あふれたお人柄だと思った。
- ・お孫さんの話を聞き、歴史上の人から身近な存在になったように思う。

第2回 坪田譲治作品の世界へようこそ！



譲治作品の紹介と朗読を行いました。1作品は譲治生前の朗読音声を使用しました。また、作品をもとに描いた絵の展示も行いました。

【感想】

- ・譲治の写真のイメージと、生の声のイメージがピッタリ。優しい人物像が頭の中に浮かんだ。
- ・朗読に参加者みんなが役割をわけて参加したのが良い思い出になった。

第3回 坪田譲治のふるさと『石井』を歩こう！



管内にある坪田譲治ゆかりの地を巡り、ポイントごとに説明を聞きました。中にはその場所が舞台となった作品の朗読も行われました。

【感想】

- ・本などで知っていることが、現地と結びついたことが良かった。実感が増した。
- ・譲治が生まれ育った「島田村」をおおまかに知ることができ良かった。

◆効果

坪田譲治を研究する市民グループ「坪田譲治を顕彰する会」と講座を共催したり、地元石井学区連合町内会に広報協力を仰いだりすることで、普段は公民館に来ない人たちの数参加が一定数あった。

講座アンケートからは、坪田譲治に対するイメージが大きく変わったという人や、譲治のふるさとに対する愛の深さに感動を覚える人もいた。講座を通し、改めて坪田譲治について理解を深められたという声は多かつた。また、譲治作品を読んでみたいという人、実際に公民館図書コーナーで坪田の本を借りる人もおり、坪田を知ってもらうきっかけとすることことができた。

「持って来られ～文房具」

ごみ減量

生活困窮
家庭支援

＆「持って帰られ～文房具」

◆ねらい

当公民館では「リサイクル食器コーナー」を常設していて、食器を持ってきたり、持ち帰ったり、日頃からリサイクルが活発に行われている。コーナーを見た方から「文房具も受け付けてもらえないだろうか」「子どもが大きくなっている文房具があるがもったいないので捨てられない」という声を何度も聞いていた。その一方で生活困窮家庭の子どもが社会的に問題になっている。そこをうまくつなげ、ごみ減量と困窮家庭の支援としたい。



「持って来られ～ 文房具」



学校にチラシを配布したり、公民館だよりに掲載したりして家庭で眠っている文房具を公民館に持ってきてくれるよう呼びかけた。

学年が変わったり、小学校から中学校に上がったりして使わなくなった文房具や終活中で片づけをしている高齢者などからたくさんの文房具が集まった。



「持って帰られ～ 文房具」



必要な子どもの手に届くよう、公民館だよりだけでなく、日常生活に困難を抱えるひとり親家庭や生活困窮家庭と支援団体をつなぐメールマガジン「おかやま親子応援メール」で情報を流してもらった。

当日は、朝早くから、学区内内外の家族が列を作った。

コロナ禍で入場制限をしながら行い、子ども一人につき10点までの文房具を持ち帰ってもらった。最終的には文房具が約2000点集まり、200人ほどの子ども達が好きな文房具を選んで持ち帰った。

子どもが笑顔で「ありがとう」と言ってくれたり、保護者から「たくさん選べてよかったね」「助かります」という声が聞かれたりした。



これから…



今後も実施したい。今年度は途中で文房具が足りなくなり、急遽、来館者や知り合いに声をかけることになった。

次回は事前に地域団体に呼び掛けるなど、協力をお願いし、地域全体でごみ減量や貧困について関心を持つきっかけになるよう働きかけたい。

当初の予想より来館者が多く、混乱した場面もあったので、次回は若者や地域の方に協力をお願いし、スムーズな運営を心掛けたい。

また、困窮家庭の子どもの体験の機会を増やすため、地域の方と一緒に遊びや工作などの体験コーナーも企画したいと考えている。



岡山市立上南公民館

上南の歴史を次世代につなぐ

上南今昔絵図ウォーキング

【ねらい・流れ】

上南地域には干拓に関わる歴史や文化・史跡などが多く残されているが、それらを語り継ぐ人材の育成及び次世代への継承はできていない。

地域住民と一緒に「上南今昔絵図」を制作。その活用方法としてウォーキングを計画する。その際、地域を案内できる人材を育てようと、座学や視察研修を含めた「上南歴史語り部養成講座」を開講。絵図の制作に関わり、その講座を受講した有志が「上南歴史を伝える会」を発足し、ウォーキング実施の主体となって活動している。

【活動の様子】



令和3年度秋から、年2回春・秋に開催。企画・コース選定から当日の資料作成まで「上南歴史を伝える会」が中心となり実施している。第2回までは講師が中心となり案内をしていたが、第3回からは「上南歴史を伝える会」のメンバーが説明をして歩いた。

昼食時にはじやんけん大会やクイズ大会などを企画。景品は地元特産品であるのりやいちごの商品などが準備され、子どもから大人まで楽しみながら、参加者同士交流できる時間も設けている。

【効果】

- ・上南歴史語り部養成講座での学びを還元し、地域に広げる場となっている。
- ・幼児から高校生、小中学校の先生など幅広い世代から参加がある。
- ・参加している高齢者からも昔の上南の話を聞くことができる。
- ・実際に歩いてみることで、歴史の分野以外でも上南のよさや課題（ゴミ問題など。毎回ボランティア袋を持ってゴミを拾いながら歩いている）を認識することができる。

若者の力を地域の活性化に

いちのみや若者プロジェクト

～岡山県立岡山一宮高等学校と連携した取組～

実現したい地域の夢：若い世代の力（発想力・行動力）を活かせる地域づくり

- ★中学生以上になると、学校や部活動、塾での人間関係が中心となり、地域とのつながりが希薄になる。
→地域社会とつながることで、多様な価値観や物事の多角的な視点に触れることができる。
- ★子どものころから他者との関わりを通して、自己肯定感を向上させる取り組みが必要。
→失敗や困難な状況に直面しても前向きにすすめる、人との良好な関係を築ける、自分を大切にして幸福感の高い人生を送ることができる。

令和4年度の取り組み

防災・減災学習

防災ボランティア養成講座

岡山一宮高校生徒
50名がHUG体験・
意見交換を通して、災
害時に自分たちがで
きることは何かを考え
発表しました。



いちのみやジュニア防災教室

中山中学校1年生対象に、12/20 実施予定。
「防災ボランティア養成講座」受講生の実践の場
として、当日はボランティアとして活躍予定です。

地域住民対象

高校生によるパソコン教室 ～Wordでチラシを作成しよう～

高校のコンピューター室を会場に、高校生が講
師役として活躍しました。地域の高齢者とパソ
コンを介して交流する場となりました。

地域へ研究成果を発表しよう

令和5年2月頃予定。課題探究授業の中で、
地域の様々な課題の解決に取り組んだ成果を
地域住民へ発表します。

小学生対象

夏休み小学生対象講座

「ザ・キッズ」

*読み聞かせの会

2年生の課題探究授業で
作成した絵本『ミジリンピック』の読み聞かせと、工作の
手伝いました。



手作りとは思えない内容で、とても奥が深いように感
じました。高校生の声もききやすくて素晴らしいなと感
じました。期待します！！(保護者)

*子ども実験教室

有志13人が講師として
活躍しました。

お兄さんやお姉さんに教
えてもらってうれしかっ
た。楽しかった。



高校生による小学生向け プログラミング教室

9/17・12/7 実施予定。
プログラミングの考え方を
ゲームで楽しく教えました。



高校生と一緒に楽しく遊ぼう

～サイリウムを振って幻想的な雰囲気を楽しもう～
11/19 実施予定。高校生が企画運営。小学生とともに、
楽しいひと時を過ごします。

成果と課題

公民館の「若者の力を地域の活性化につなげる」というねらいと、高校側の「生徒の地域活動への貢
献」がマッチし、win-winな関係が築けています。コロナ禍で途切れかけた時もありますが、コロナ禍だから
できることを互いに模索して、取り組みを進めています。

一方で、2年生の課題探究グループが中心に関わっているため、継続して活動に参加する生徒がいな
い点が課題としてあります。

“ホンマもん”に触れよう！

◆ねらい（解決したい地域課題） 「自然の中や社会の中で、多様性を認め合える地域」

現代社会では、デジタル化が進み「本物」に触れることがどんどん減ってきている。特にパソコンやスマートホン、タブレットなどが幼少期から身近にある子どもたちや若い世代に、自然界の“ホンマもん”に触れる機会として企画。身近な自然の中に息づいている植物や昆虫を観察し、その生態や「社会性」を知ることで、自然界に生きる生物の営みやその多様性を学び、人間社会を見つめ直す一助とした。

◆活動の様子

①コケの世界へようこそ（8/4）

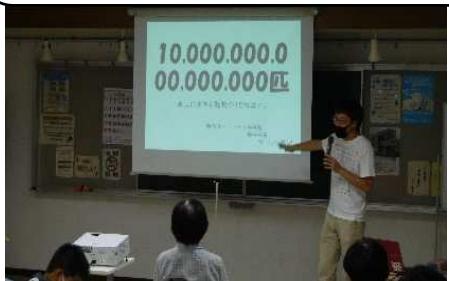


コケの世界をのぞいてみると、のぞいた人にしか分からない魅力的な世界が広がっていて、たちまちそのとおりになってしまいます。ひとくちに「コケ」と言っても多種多様であり、その特徴も様々あることが分かりました。



アリは社会性生物といわれ、他の生物や人間とは異なる不思議でおもしろい生態をしていることを知りました。公民館の庭にも多くの種類のアリが見つかり、身近な昆虫なのに驚かされることが多く、発見！発見！の連続でした。

②アリの生き方から学ぶ「アリ学入門」（8/6）



◆参加者の感想など（児童・生徒、保護者、一般の大人）

○実際に屋外で観察をするフィールドワークが楽しかった。

○コケの世界はすごく面白い！まるで森の中にいるような感じだった。

○働きアリは全員メスだとか、地球上にはアリが1京匹（！）暮らしているから地球は「アリの惑星」であるとか、知らないことがたくさん分かった。

※子どもから大人までが一緒に学び、同じ体験をするという当館の目標を達成することができました。

これからも様々な生物に興味を持って、みんなで高松の自然環境を守る気持ちにつながればと思います。

春の田んぼであそぼ！

～福田の春の自然あそび～

お父さんだって、子どもに戻って全力で走ります！2時間なんてあっという間！



福田学区は、岡山市南西部に位置し、2号線バイパス沿いには大型商業施設や企業が立ち並び、交通量も多い地域ですが、一歩中に入れば、山あり、川あり、田んぼがひろがる緑豊かな地です。

しかしながら地域の子ども達は、豊かな自然を生かした遊びの経験にとぼしく、体験の場も多くはありません。今回は、地域の方のれんげ畑に入らせてもらい、地域の大人の見守りの中、めいいっぱい遊ぶことができました。

用意されたものではなく、そこにあるもので遊ぶ、遊びを自分たちで生み出しながら地域の自然を楽しむことを3世代で体験し、「創造力の育成」「わがまちの魅力発見」「地域のつながりづくり」をめざしています。

「私たちも子どもの頃、よく作ったんよ！」

見守りの地域の支援サポーターの皆さん、れんげの花冠や首飾り、草笛の吹き方を教えてくれました。みんな興味津々でした！



「またカエルがおった！トノサマガエルじゃ！」

れんげ畑には、色々な種類のカエルや蝶々、バッタなどがいて、子ども達は網をもって走り回っていました。



「ふかふかで気持ちいい！」
「くさの匂いがするなあ」

赤ちゃんも触って楽しみました。子どもたちは、れんげのじゅうたんにダイブしていました。みんなの目がキラキラしていました。

＜講座を終えて＞

毎日見ているけど、当たり前すぎて、目に入らない自然、遊ぶという発想につながらない自然…。

私たちの暮らすまちで、こんな楽しい遊びができるということを体験できたと思います。

参加の保護者からは、「いつも時間に追われているけど、大人も子どもも、こういう自然の中での体験やゆったりとした時間が、本当に必要だと思いました」など、田んぼの持ち主やサポートスタッフの方への感謝の声も多々いただきました。

上道公民館

学校・地域と共に進める防災学習

◆前回の様子から(解決したい地域課題)

平成26年、「学校連携実行委員会」設立以来、継続して学校園で防災学習に取り組んでいる。西日本豪雨で甚大な被害を受けた上道地域住民の防災・減災に対する意識と実践力をさらに高めるためには、これまでの「子どもたちと向き合う公民館主導の防災学習」から、「教職員や保護者、地域の方々を巻き込んでの防災学習」へと取組を深化させていく必要があると考えた。

◆ 内容

【事業のコンセプト】

- 学校園との連携強化のために、学習(単元)計画策定の際に事業の位置づけを明確にするなど、子どもたちの意識の流れに沿った学習内容になるよう学校園との打ち合わせを密にする。
 - 保護者、地域住民との協働体制を構築するために、保護者、地域住民にも子どもたちの学習活動を支援する場面を可能な限り設定するなど、参加体験型の学習となるよう工夫する。
 - 災害発生時の避難所運営を円滑に行うために、備蓄倉庫の物品の種類や数量を確認したり、テントやベッドの設営・撤収を行ったりするなど、もしもに備えた体験活動を充実する。

【事業の概要】（10月20日に実施した浮田小学校での活動事例）



保護者(消防士)の方から
学区で想定される災害に
ついて話を聞きました。

PTA会長がベッドの作り方を教えてくれました。私が乗っても、ほら大丈夫。



グループごとに避難リュック・ベッド&テント・トイレ・備蓄品の4つのブースを巡りました。町内会長、地域の防災士、父母や学校の先生方、公民館職員が子どもたちの活動を温かく見守りサポートしました。



◆講座を終えて(感想と課題や会後の見通しなど)

子どもの感想・・避難リュックを準備していないので、今日の勉強をいかして準備しておこうと思います。今の防災計画書には、まだたくさん足りないところや考え方直した方がよいところがあるのに気づいたので、直したり、必要なことを書き足したりしておこうと思います。

保護者の感想・聞くと見ると大違い。4つのブースを回るなど体験を大切にする形で準備されていたので、子どもたちの意識がずっと途切れることなく、実り多い教室だったと思います。有事の際に、大人も子どももこんな風に行動するというイメージがもてたと思います。

◎7月に同様の内容で実施した城東台小学校では、参加された連合町内会長が「この学習を地域の多くの大人にも体験してほしい」と学区の防災研修を開催した。このように、広がりのある防災学習をこれからも工夫し、展開していきたい。

岡山市立足守公民館

生活サポート・チーム「ねこの手」



◆ねらい(解決したい地域課題)

足守中学校区の高齢化率は 41.7% (R4.4 月現在) である。一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増え、生活支援や介護予防が喫緊の課題となっている。日常生活の中で、ちょっとした困りごとをサポートできる人(グループ)が必要とされている。

お互いに助け合うことで、誰もが安心して暮らせる地域・高齢になっても、一人になっても、自宅で暮らしていける地域。となるための手助けを行う。

◆活動の様子



庭の草取りの依頼が多くあります↑



年末には窓ふきの依頼も←



◆依頼などの連絡方法



連絡には LINE を活用しています↑
メンバー同士の楽しい交流の場にもなっています。

活動は「公民館だより」や公民館の facebook で紹介しています↓



◆効果 (参加者の声等)

<利用者>

- ・ひとり暮らし (90 歳) なので、家の中が明るくなり、本当に助かりました。(窓ふき)
- ・東京から孫がホタルを見にくるので、きれいになってうれしいです (庭の草取り)

<メンバー>

- ・地域で元気にボランティアを続けられること、(利用者に) 喜んでもらえることがとても嬉しい。

西大寺鉄道跡歩く



◆ねらい（解決したい地域課題）

東公民館のエリアである龍操中学校区には、その昔、西大寺鉄道（軽便・けえべん）が通っており、その跡が学区内に今も残っている。令和2年3月、大師駅跡（幡多学区の関）にまちしるべと駅名看板が設置された。

地域の宝で語り継ぎ発信していくべきものとして、西大寺鉄道関連の学びを深め、顕彰活動への機運を高める。

第1回「西大寺軽便鉄道廃線から60年」

5月28日（土）13時30分～14時30分

東公民館ビデオクラブ制作「西大寺軽便鉄道廃線から60年」（18分）を視聴後、地域在住の方が「けえべん」の思い出などを語りました。



病院前には、橋台跡が残っています。



旧藤原駅は現在タクシー会社になっていて、屋根部分が駅のホームがあった位置だったとか…想像できますね。

◆効果（参加者の声等）

- ・ビデオ作品は、旧西大寺駅から旧後楽園駅までを当時と現在の場所を比較しながらの映像となっており、まるで訪問している（歩いている）気分になった。地域住民の思い出話も詳しく、面白くて話に引き込まれ、「けえべん」になじみのある方は当時を思い出して昔話をする方もいた。
- ・現地を訪問し、遺構を見ることで、参加者たちは当時を思い浮かべていた。線路跡に気づかず素通りしていた方もいて、新発見だという声も聞かれた。
- ・参加者の小学生の1人に話を聞くと、鉄道が好きなので参加したとのことで、子どもから大人までが地域の宝を学ぶ機会となった。
- ・大師から長利方面、原尾島から後楽園方面へのウォークの希望もあり、今後はそのエリアの公民館の協力を得て、計画をしていけたらと考えている。

第2回「けえべんウォーク」

6月11日（土）10時～12時

東公民館発着で、旧藤原駅（中区藤原）から旧大師駅（中区関）間の線路跡を中心に約4kmを歩きました。普段通る道が線路跡だったとわかった人も。地域の再発見につながったようです。



線路跡の土台がそのまま残っている箇所での説明。

地域ええとこ発見講座～地域のお宝 再確認!!～

◆ねらい（解決したい地域課題）

地域の歴史や史跡についての話を聞いたりお宝を求めて地域を歩いたりすることを通して、地域のよさを再確認・再発見したり分かち合ったりする。講座編とウォーキング編を取り入れることにより、「地域理解」に加えて「健康」「自然」「交流」等の観点もねらいたい。

◆活動の様子



5月 ウォーキング編 倉安川に沿っての東コース
無量寿院(芥子山)で住職さんの話を伺いました

6月 講座編 ウォーキング編で見つけたお宝を
振り返ったり地域とのかかわりを話したりしました



10月 ウォーキング編 庄内川に沿っての北コース
御野立所(古都)でトンネルに入る新幹線を見ました

11月 ウォーキング編 庄内川に沿っての南コース
庄内水門(可知)で地域の方に説明して頂きました



◆効果（参加者の声等）

「歩くのも楽しかったし、講座編もとても良かったです。次々に続編続編で企画してほしいです。地元のことでも知らないことが多くいろいろなことを知ることができ嬉しいです。」「知らないことだらけだったので、大変勉強になり、楽しく時が過ぎました。ほんとに『ええとこ発見』でした。」毎回参加された方には満足して頂いています。講座編はウォーキング編に参加されていない方も楽しめるように考えていました。公民館職員手作りの講座です。

カブトムシを育ててみよう!!

◆ねらい（解決したい地域課題）

当館の地域は山林から遠く、自然と接する機会が少ない。子どもたちにとって昆虫が身近な存在ではなく、カブトムシはお店で買うもの、動画で見るものになっている。イモムシ（幼虫）がカブトムシになることを知らない子もいる。

そこで、子どもたちを『カブトガ』と称し一緒にカブトムシを育てることで仲間意識を育み、子どもたちに命の大切さや自然環境を意識するきっかけを図る。また、ワクワクするような展示物が少ない公民館内を活気づけたい。

◆活動の様子



◆効果

カブトムシの土を混ぜる作業では、子どもたちは、泥んこになりながら、楽しそうに土の感触を味わっていた。最後の「カブトムシ見せ合いっこ」では、自分の育てたカブトムシを嬉しそうに見せてくれた。幼虫が怖かったお母さんは、育てていくうちに愛着が生まれ、カブトムシを手に載せることができ、親子で喜びを共有していた。

また、公民館で育てたカブトムシを館内にディスプレイすることで、子どもはもちろん高齢の来館者まで、懐かしさや興味を持って見てくれて、館内のコミュニケーションの輪が広がった。

オープン公民館 for Tomiyama

◆前回の様子から

公民館をもっと身近に感じてもらい、誰もが気軽に立ち寄れ、様々な世代の人に利活用してもらおうと昨年度初めて開催。昨年度はコロナの影響で一部の行事のみの開催であったことから、企画運営委員の皆様と検討し、夏休みの2日間、公民館の魅力や可能性を感じてもらえるよう内容を検討し実施しました。

8月6日(土)

ぽけっと文庫スペシャル
お話やわらべうたをみんな
で楽しみました。



たのしい科学あそび
つくってあそんで、見て楽
しんで科学の不思議さを楽
しみました。



(全体チラシ)



オリエント美術館がやってくる！
古代のコロコロスタンプをつく
ったり、美術館所蔵の名品を紹
介する「オリエンかる太」であ
そんだりしました。

8月7日(日)

ジュニア防災
水害・土砂災害について、ゲームやワ
ークショップなどを通じて、いざとい
う時の備えについて大学生と一緒に考
えました。



40~60代の方対象
わが青春の一曲
10代、20代の頃の青春の一曲で語り合いました。



人生を変えるワークショップ
中学生や大人が一緒に語り合
い、様々な人の経験や価値観
にふれることができました。



◆講座を終えて（成果や課題、今後の見通しなど）

企画運営委員の方々と知恵を出し合い、乳幼児から60代の様々な年代の方が、気軽に来館し楽しみ、公民館の魅力を感じる良い機会になった。中学生が一参加者としてもボランティアとしても前向きに参加してくれ、知らない人と話したり交流したりすることによって地域の良さや自分を振り返ることにつながったのではないかと考えている。来年度も幅広い世代が参加し、気軽に公民館の魅力や可能性を感じられるよう、今年度の反省をもとに、工夫を重ねてより充実させていきたい。



岡山市立

高島公民館

〒703-8203

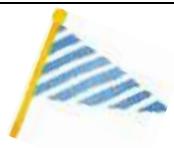
岡山市中区国府市場 99-5

TEL・FAX 086(275)13541

takashimakouminkan@city.okayama.lg.jp

中学生ボランティア

「高島地域づくり隊」活動レポート



高島地域づくり隊とは・・

令和4年6月にスタートした高島地域づくり隊。「地域に貢献したい！！」、「なんか面白そーじゃなー」、と思い参加してくれた中学生22名と支えてくれる大人スタッフや地域の人、公民館の職員が一緒になって、自分が、そしてみんなが・地域が「楽しく、ワクワクする」を目標に活動しています！可能性は無限大です！

活動 その1

★高島小学校4年生の授業「志教育」で活用する動画教材をつくる！

高島にゆかりのある大人（＝高島人）が、自分の仕事の内容ややりがい、子どもの頃と今の夢や、児童へのエールを話す動画教材づくりに参加しました！研修会を経て、実際にインタビューやカメラや音声を担当。動画の編集も一部行いました。



活動 その2

★地域の行事にボランティアで参加する



【参加した中学生のレポート】

もし、災害が起きたら…。正しい行動をとれるよう、旧旭竜幼稚園でこども防災体験が開かれました。当日はたくさんの家族であふれ、のんびりとそして真剣に取り組む様子が見られました。参加した地域づくり隊それぞれが、「水害着せ替えゲーム」・「段ボールトイレ作り」・「新聞スリッパ作り」などを担当し、子供たちと一緒に楽しみながら学んでいきました。張り切りすぎて、喉を痛めながらも、最後までやりとげました。



上記以外にも・・地域の行事の「ウォーターガンバトル」や「タカイルミ」、公民館の小学生向け「サマーチャレンジ教室」などにも参加しました。

→
ウォーターガンバトルの様子

活動 その3

★地域づくり隊の全員で高島の人を笑顔にする！プロジェクト



高島地域づくり隊員が、これから取り組みたいこと、取り組んでみたいことをみんなで事業化しています。「いつ」、「だれが」、「どこで」、「だれに（だれと）」、「どのように」を整理して、予算は？人員は？安全面は？などを考えながら進めています。

どんな事業ができるか、楽しみです！！





前回の様子から

京山学区は住宅密集地であるためマンション等でも取り組みやすいプランター栽培をメインに昨年からこの講座を実施してきた。今年度も新たに野菜作りに取り組む家庭を増やすため、野菜の植え付け、管理方法、ボランティアによる野菜や食育に関するクイズなどを交えた講座を行った。



野菜に関するクイズを大学生ボランティアが考えてくれました。



自分で植えたさつまいもの観察をするために公民館の窓を何度も見に来てくれる子どももいました。



講座を終えて

これまでに、にんじん、ラディッシュ、玉ねぎ、イチゴ、さつまいも、ミニトマト、インゲン豆、などを栽培することができた。参加者は子育て世代が多く、高校生や大学生のボランティアも関わっているため世代間での交流もすることができた。また、昨年から続けて参加している方もいて、芽がでてきたり、収穫した野菜を食べたりするときの喜びも感じてもらうことができた。みんなで楽しく学び地域に野菜作りの輪を広げていきたい。

岡山市立御南西公民館

平和って大事だね！



被爆二世の方のお話 & 折鶴をたくさん作って公民館に飾ろう

◆ねらい（解決したい地域課題）

令和2年度に地域在住の被爆者の方の体験を御南中学校生徒有志と共に冊子にまとめた。この被爆者の壮絶な体験と平和へ願いを一人でも多くの若者に伝えていくため、令和3年度から小中学生を対象とした平和学習を夏休みに開催してきた。この学習で戦争や原爆の恐ろしさに触れ、被爆者や被爆二世と交流することで、若者一人一人が平和な社会を築く意思を固め、実現に向けて努力する志や態度を形成することをねらいとした。



← 被爆体験冊子

◆活動の様子

岡山県原爆被爆者会二世部会の方による父親の被爆体験のお話



世界の平和を祈り、和やかに語らいながら折鶴をたくさん作った。



鶴がおれなくても教え合うから
大丈夫。
←

絵本タイムでは、各自が原爆絵本の世界に引き込まれた。



絵本が伝えたいことを
集中して読み解く。
←

「戦争は国とりじゃない、命とり」被爆者のメッセージが胸に迫る。



九十四才。力強く語られる姿
に皆感銘を受けた様子。
←

◆中学生の感想より

二世の人の話を聞いて、被爆の悲惨さを学ぶことができました。被爆の話で被爆のことについてたくさん知ることができました。ここから、今、生活できているのは「平和」だからできることなのだと分かりました。遊ぶこと、学校に行くこと、歩くこと、すべてにおいては平和からくるものなのだと思いました。だから、戦争は絶対にしてはいけないことを後世に伝えていかないといけないことが分かりました。（中学2年生）

このように中学生から、感謝の気持ちや平和を祈る思いが寄せられた。被爆者・被爆二世との交流により、原爆をより身近に感じ、人として大切なことを教わった。私達がこれからなすべきことを考えるきっかけとなった。